

評価問題例

算数 計算の見積もり

1 お祭りで、1枚315円のお好み焼きが475枚売れました。売上高はいくらですか。見積もってから計算しましょう。また、文章や式で解き方を説明しましょう。

お好み焼きが475枚売れたので、式は 315×475 。
 315×475 では、それぞれ上から2桁目を四捨五入するので $315 \rightarrow 300$ $475 \rightarrow 500$ となり
 $300 \times 500 = 150000$ 積は約150000と見積もります。
 $315 \times 475 = 152775$ 答 152775円

2 6年生で旅行に行き、費用は全部で91224円でした。28人で同じように分けるとき、1人分は何円になりますか。見積もってから計算しましょう。また、文章や式で解き方を説明しましょう。

概数にするにはどこに目を付けるのかや、0の処理に気を付けさせる。

全体の費用から一人分を求める式は、 $91224 \div 28$ 。 わられる数を上から2桁、わる数を上から1桁にするので、式は、 $91000 \div 30$ で、約3000。
 商は、約3000と見積もります。
 $91224 \div 28 = 3258$ 答 3258円

3 次の式を使って自分で積の見積もりの問題を作り、文章や式で解き方を説明しましょう。
 480×46

【振り返り】

- ① 積や商を概数で見積もるよさがあるようになった。(◎ ○ △)
- ② みんなに自分の考え方を説明できるようになった。(◎ ○ △)

式から問題を考えさせる。

児童自身が、学びのめあてを意識し、次時に目標をもつための自己評価欄である。

評価問題のポイント

問題1は、積を概数で見積もる問題である。積をおよその額で表す概数のよさに気付くとともに、自分の考えを文章や式で分かりやすく説明する力をつける。

問題2は、商を概数で見積もる問題である。商をおよその額で表す概数のよさに気付くとともに、自分の考えを文章や式で分かりやすく説明する力をつける。

問題3では、積の見積もりの考え方を生かして問題作成に取り組ませる。学習してきたことを生かし、自分の身の回りの生活の場面と結びつけて考えさせる。そのことが、実生活に生かす力につながる。

さらに、自分の学びを振り返り、次の時間のめあてを一人一人の児童がもつことができるようにする。評価の方法はいろいろあるが、常に児童にめあてを意識させることが大切である。児童の実態や単元の流れに合わせて工夫していかなければならない。